

禁煙のすすめ

膀胱がんだけでは、喫煙は腎臓がんのリスクファクターでもありません！

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

今回は、喫煙が泌尿器がんの中で、膀胱がん、尿路上皮がんなどのリスクファクターとなることをお話ししました。今回はその続きです。

泌尿器領域において喫煙は、実は、膀胱がんだけでなく腎臓がんのリスクファクターにもなるんです。腎臓がんは、膀胱がん同様に喫煙により体内に吸収された代謝物が尿路に排出されることで腎臓に影響し発がんすると考えられています。

腎臓がんとは、腎臓の尿細管上皮細胞から発生するがんで、50歳以上の男性に多く、通常、健診や他科のエコー・CT検査で偶然、無症状で見つかることが多く、進行すると血尿、腹部の腫れ、腰痛・側腹部痛、食欲不振などの症状を認めます。腎臓がんの治療は、腎臓内に局限している約4cm以下のサイズが小さい場合は、部分切除術（腫瘍の部分切除する手術）が、それ以上の大きさの場合は全摘手術（腎臓をすべて片方摘除する手術）が行われることが多いです。また、転移した場合は、免疫薬や分子標的薬などの薬物治療が行われます。

腎臓の働きは、血液から体の老廃物

を排出し、尿を作るだけでなく、赤血球の生成に関与するホルモンを分泌したり、血圧を調整するホルモンを分泌し血圧を一定に保ったり、骨を丈夫にするホルモンを分泌し骨を強くするなど、さまざまな機能を担っています。腎臓は2つありますので、機能が正常な場合は、1つ手術で摘出して腎臓の機能は維持することは十分可能ですが、もともと腎機能が悪い患者さんは、手術によって大きく影響し、場合によっては、透析になることがあります。

腎臓がんの主なリスクファクターは、喫煙、肥満、高血圧などです。まず、禁煙を強く推奨します。

また、**普段の腎機能の悪化にも、高血圧や糖尿病そして肥満が大きく影響しています。**

将来、透析は避けたいですよね。腎臓を守るためにも、普段から高血圧や糖尿病などに注意して、塩分やカロリーに注意した規則正しい食生活や適度な運動などを心掛けたいところです。

一人でも多くの腎臓がんを発症する患者さん、そして透析導入となる患者さんが減ることを、一泌尿器科医として切に願っております。

Profile

医療法人社団 SASAKI CLINIC 理事長
佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US 前立腺融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。日帰りの前立腺生検や放射線治療前のスパーサー挿入などにも力を入れている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように